

第2次蒲郡市地球温暖化対策実行計画（区域施策編）（案）のパブリックコメント結果

募集期間	令和6年7月10日（水）から令和6年8月8日（木）まで
担当課	市民生活部 環境清掃課 ゼロカーボンシティ推進室
公表方法	<ul style="list-style-type: none"> ・ホームページからの閲覧 ・冊子の閲覧場所 環境清掃課ゼロカーボンシティ推進室（蒲郡市クリーンセンター） 情報公開コーナー（蒲郡市役所新館4階） 蒲郡市公民館設置及び管理に関する条例に規定する公民館（蒲郡、小江、府相、東部、北部、西部、三谷、塩津、大塚、形原、西浦）
意見の提出方法	直接持参、郵便、電子メール又はファクシミリ
提出意見	2名2件

【意見No.1】

提出された意見内容
<p>計画に、蒲郡市の生物調査の定期実施、保全すべき地区の特定・指定、開発からの規制を含めて下さい。</p> <p>蒲郡市は海と山に囲まれた美しい景観と、そこから得られる豊かな資源が魅力のまちです。こうした景観も資源も蒲郡の自然環境によって支えられていますが、現在蒲郡市には環境指標となるこれらの環境で暮らす生きものの評価がなされていません。岡崎市のレッドデータブックや豊橋市のとよはしネイチャースポット保全マニュアル／地域区分などのように、蒲郡市内のどこにどのような生物が暮らし、開発から守り保全していくべき場所が提示されていません。</p> <p>調査がされないまま太陽光発電のソーラーパネルや風力発電の風車等の設置等の開発が行われれば、取り返しのつかない蒲郡のかけがえのない自然破壊につながりかねません。失ってからでは取り戻せないものがあります。</p> <p>蒲郡市には自身や知人が確認したものではありますが、以下の生物が存在しています。</p> <p><繁殖している可能性がある絶滅危惧種></p> <p>【鳥類】</p> <ul style="list-style-type: none"> ・シロチドリ愛知県：絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）・絶滅危惧Ⅱ類（越冬）（国：絶滅危惧Ⅱ類） ・カッコウ愛知県：絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）・準絶滅危惧（通過）（国：リスト外）

- ・ミサゴ愛知県：準絶滅危惧（繁殖）・リスト外（越冬）（国：準絶滅危惧）
- ・ハヤブサ愛知県：絶滅危惧Ⅱ類（繁殖）・準絶滅危惧（越冬）（国：絶滅危惧Ⅱ類）
- ・フクロウ愛知県：準絶滅危惧（繁殖）・準絶滅危惧（越冬）（国：リスト外）
- ・ミゾゴイ愛知県：絶滅危惧ⅠB類（繁殖）・絶滅危惧Ⅱ類（通過）（国：絶滅危惧Ⅱ類）

【哺乳類】

- ・カヤネズミ愛知県：絶滅危惧Ⅱ類（国：リスト外）

<その他蒲郡の環境を必要とする絶滅危惧種>

【鳥類】

- ・ハマシギ愛知県：絶滅危惧Ⅱ類（越冬）（国：準絶滅危惧）

【哺乳類】

- ・スナメリ愛知県：準絶滅危惧（国：リスト外）

日本の野生動物は鳥獣保護法にて守られており、繁殖中の開発行為は法律違反になる場合があります。

意見に対する市の考え方

ご意見ありがとうございます。

ご意見をいただいた生物調査の定期実施、保全すべき地区の特定・指定、開発からの規制は、自然環境や生物多様性を保全するための方針、具体施策等として、本計画案とは別の方針・計画等に定め、実施していくべき事由と考えます。

当該計画等を策定することは現時点で未定でございますが、いただいたご意見は参考とさせていただきます。

【意見No.2】

提出された意見内容

まず、過去から現在、あるいは将来に渡る歴史に予測を加味、つまり見通しを考慮して書かれているのに「AI」という言葉が見当たりません！現状で思いつく改善策には見当たらないかもしれませんが将来的には必ず使わなければいけないツールであることは周知であると思われませんが、かけらもないとはどういう事なのでしょうか？

文中にもありましたが、地球温暖化については一刻を争う最重要課題で待ったなしです！僅かであっても効果のある改善策を実行して行く、あるいはなにがしかトライして行く事が時代の求めているものだと思います。

そこで恐らく数ある中でも私が推し進めたい AI を使った実効性のある手法を是非とも検討して頂きたいと考えております。それは自動車の排ガス、CO2 の削減策です。

EV 等の効果もさることながら現状の最大課題は燃費です。エンジンオンリーの車は今後数が激減するでしょうが EV が現状抱える問題が多く、まだまだ拡大には時間がかかります。しかしながら、民衆の足として車の数は減ることは無いでしょう。特に蒲郡のような公共交通機関の未成熟（問題は多い）な都市については車は市民の足として今後数年は重要な移動手段であり続けると思われます。

個々の車が使うエネルギーの最大使用時は発進時です！これを狙って排ガス、CO2 削減

に効果を発揮するのは交通事情の改善です！移動手段として日常生活では必要欠くべからずの車ではありますが、交通ルールを守って運転する必要がある以上、発進停止の繰り返しは少なからず発生します。私が注目したいのは「信号」です。皆さんも感じてると思いますが、よく信号で止められる。せっかく赤から青に変わったのに少し行ったらまた赤で止められる。市内の23号バイパスは信号の度に止められることが頻繁で交差する道路に車がない状況でも赤信号で止められる事がたびたび起こります。不必要な発進停止が頻繁に繰り返されて、その度に車はローギヤで発進し燃料を使う。年間の総量として考えると恐ろしいほどのガソリンが消費されてると思っています。本計画の現状は総量をまとめて数字にしているの、それが当たり前で計算されてますが例えばAIを使った信号制御でコントロールされた交通状況ではどの位の燃料の削減が可能か？渋滞についても起きるメカニズムの解析から未然に防ぐ捜索をAIに監視、制御させたらどうなるか？など、本来あるべき交通事情がAIによって確認できるものと考えております。土曜、日曜に車で岡崎へ行くと嫌になりますよね？

とにかくこの計画については現状をまとめた総量について段階的に目標に向かって削減する計画は示していますが、目標の早期達成に向けた更なる改善案が無ければ決められた期日までの目標達成は絵に描いた餅になるのではないかと思います。世の中の計画の殆どがこの一本やりの計画だからです。今ある総量を基準にするのではなく、更に将来にわたって減らしてゆくべき算段が必要ではないか？と思うのです。その際に時代が進めばツールも進化して、もっと効果のあるものが見えて来るのに、使わない手はないと考えるのはおかしいでしょうか？誰かが「勿論考えてます」と言いそうですが、計画書の中には記述がないのは仕事としてまとめたからと思わざるを得ません！どうか、あらゆる場面で新技術を使った改善策で早期の達成で効果を創出する事を今後も、もっと検討し続けて下さい。そして可能性で構わないので記述して下さい！

意見に対する市の考え方

ご意見ありがとうございます。

本計画案においては、「AI」という言葉を使用しておりませんが、今後の再生可能エネルギー設備等の導入において、設備保全や再生可能エネルギーの出力予測のためにAIを活用するなど、新技術を活用してCO2排出量の削減について取り組んでいかなければならないものと考えております。

具体的にご提案をいただきました、AIを使った信号制御につきましては、信号の設置等について市ではなく公安委員会が管理するものであるため、市として具体的な取組や言及は出来かねますが、警視庁では2022年度からAIによる交通予測精度や実効性を確認しており、実証を行い、効果を検証したのち、導入を広げていく方針とのことです。

いただいたご意見は参考とさせていただきます。